

2019年度 フィリピン共和国における看護学研修報告

I. 概要

1. 目的

フィリピンにおける健康、医療システム、伝染病/熱帯感染症、日比の文化の違いを理解する。また、看護実践で必要とされる固有の文化、宗教、価値観、健康に関する課題について学ぶ。

2. 学習目標

- 1) フィリピンの健康医療システム、健康に関わる諸因子を理解する。
- 2) 熱帯地域における健康問題を理解する。
- 3) 熱帯地域における感染医療の課題と対策を理解する。
- 4) San Lazaro Hospital の役割と機能を理解する。
- 5) 熱帯感染症（狂犬病・マラリア）、結核、HIV の患者・家族に対する看護（師）の役割を理解する。
- 6) 日比の比較を通じて、それぞれの国における感染予防看護の課題と展望を考える。

3. 研修日程 2019年 9月1日（日）～9月7日（土）

4. 研修場所 Republic of the Philippines, Manila

- University of Santo Tomas Hospital
- San Lazaro Hospital (Special National Hospital Medical Center for Infectious Diseases)

5. 対象学生 看護学科4年生5名

6. 研修引率・実習指導教員

看護学科実践看護学講座 猪俣理恵

看護学科基盤看護学講座 安藤敬子

7. 公募および応募の条件と選抜方法

応募条件を、①国際交流に関心があり、熱帯感染症について学びたいという意思がある ②健康状態に問題がない ③費用の負担が可能 ④保護者の同意があるとし、総合実習オリエンテーションにて公募を行った。

看護学科4年生9名の応募があった。基礎科目の平均点、英語教員による面接(英語)、動機(英文)、過去のUSTプログラムへの協力実績、国際医療看護論受講の有無を点数化し、成績上位5名を選定した。

II. 研修内容

1. 事前学習

1) 学習内容

- ① Infectious Diseases (担当：井上)
- ② フィリピンの医療事情と看護提供システム (担当：猪俣)
- ③ フィリピンの歴史・文化、地理や気候 (担当：猪俣)

2) 方法

学習項目の担当教員の指導のもと、8/19～8/23 の期間にメンバー間で協力しながら学習を進めプレゼンテーション資料を作成した。8/26～8/30 の期間に英語で各学習内容をプレゼンテーション後、ディスカッションを行った。また、フィリピンでの研修最終日に行う日本の文化・学生生活のプレゼンテーション準備・修正も同時に行った。

2. 現地研修

(1) Opening Ceremony (9/2)

Prof. Loa による学内案内で周知されていた為、多数の 2, 3 年の UST 学生の参加の中で Opening Ceremony が行われた。Prof. Chua (Dean)のウェルカムスピーチに続き、猪俣がレスポンススピーチを行った。その後、UST から Oita の研修生に記念品の贈呈が行われ、学生による歓迎のパフォーマンスが催された。



- 写真1. Opening Ceremony の掲示 (左上)
- 写真2. UST 学生による歓迎の演奏 (右上)
- 写真3. Prof. Chua (Dean)、Faculty members、UST 学生と共に (右下)

(2) Class Session (9/2, 9/3, 9/4)



写真 4. Prof. Loa による伝染性感染症に関する講義の様子 (上)

写真 5. 講義後に Prof. Loa と UST の学生とともに (右)

臨地研修と並行して、フィリピンの歴史、文化、宗教、健康価値、言語については Prof. JV から、伝染性感染症については Prof. Padilla と Prof. Loa から講義を受けた。

UST の学生も同席する場面もあり、講義後にお互いの環境等について話し合う場面も見られた。



(3) Clinical Observation : San Lazaro Hospital (9/2, 9/3)

Nursing Student Affiliation 部門のである Rosemarie Supervisor と、Prof. Padilla の案内のもと施設見学を実施した。サージカルマスクとガウンを装着し、成人病棟、小児病棟、動物咬傷・予防接種外来、救急外来・トリアージを見学した。今夏はデング熱の流行がみられており、1 つのベッドに 2 名の患者が同床したり、廊下で簡易ベッドを使用したりしていたが、アウトブレイクの際は患者数が大幅に増加するため病棟での収容だけでなく UNICEF から寄贈された敷地内のテントに患者収容することもあるとの説明を受けた。とびひ、手足口病、破傷風、レストスピラ感染症、デング熱の入院患者と家族の方に話を伺い、症状を観察することができた。動物咬傷・予防接種外来では、看護師による予防接種の様子を見学した。国営施設であり、外来受診料や注射費用は無料であるが、毎日 500 人以上の来院者のなか外来の待合場所は屋外という環境に学生は驚いていた。フィリピンでも狂犬病に対する予防法が整えられつつあるが、感染した野生動物に触れる機会が多いこと、公衆衛生上の日本との違いについて学生は学んでいた。結核患者病棟では、N95 マスク、ガウン、キャップを着用し、見学を実施した。るいそうの著名な患者や見学中に大部屋で亡くなる患者と家族に遭遇し、フィリピンにおける結核罹患患者の現状と医療・看護について目の当たりにすることとなった。



写真 6. 朝礼後、SLH 玄関前で



写真 7. UNICEF 寄贈のテント前にて

(4) UST Hospital and Campus Tour (9/3、9/6)



写真 8. UST Hospital ナースステーションにて

(5) Observational Shift : UST Hospital (9/4)

臨地実習中の UST 看護学生とバディを組み（本学学生 1 名に UST 学生 1~2 名）、シャドウイングを実施した。UST の実習指導教員（Prof. Beltran）から実習内容について説明を受けた。UST の実習生が行う、VS の測定、与薬、清潔ケア、検査介助などに同行し、日本との設備、物品の違い、実習スケジュール、実習方法、患者との関わり、看護学生が病棟で担う役割等について各学生が考える機会となっていた。

また、Break Time には日比の学生とともに休憩をとり、互いの学生生活などについて情報交換を行っていた。



写真 9. バディの学生とともにブレイクタイ

(6) Manila City Tour (9/5)

リサール記念館、サンチャゴ要塞、マニラ大聖堂など、マニラの歴史的、文化的史跡を Prof. Cortez と Prof. Loa の案内のもと見学した。



写真 10. サンチャゴ要塞にて

(7) Courtesy Call

- ① SLH (9/2、9/3) : Lopez 院長、Lazaro 看護部長、Calma 事務局長、Dimapilis 教育部門長



写真 11. Lazaro 看護部長とともに



写真 12. Lopez 院長をはじめとする SLH のスタッフの方々とともに

- ② UST Hospital (9/3) : 看護部長



写真 13.
看護部長をはじめとするスタッフの方々とともに

- ③ UST Offices (9/6) : 国際交流部門、学生部門、広報部門



写真 14.
国際交流部門にて UST の国際活動を伺う

(8) Heartfelt Hospitality

昼食は連日フィリピン料理がケータリングされた。9/3、9/5、9/6 は、教員により夕食を招待され、多様な文化の入り混じるフィリピンの食生活にふれ、その中での交流を経験でき学生は満足していた。

また、2018 年に交流プログラムで大分大学を訪問した UST の卒業生が本学学生を訪れて、交流する場面もみられた。



写真 15. フィリピンレストラン Barbara's に

(9) Presentation by a faculty and students of Oita University

安藤先生が「Current status and issues related to health, medical care and welfare in Japan」と題し、日本の保健医療福祉と課題について 30 分間のプレゼンテーションを行った。フィリピンでは、高齢化が新たな問題として認識され始めた為か、興味を持って今後の対策等について質問がされた。その後、学生が「日本の文化と大分大学医学部看護学科の学生生活」についてプレゼンテーションを行った。日本に留学希望の学生の参加者が多く、食生活や着物文化等を説明する際に完成が聞かれた。Prof. Loa によると、学生のプレゼンテーション後に幾人もの学生から今後の大分大学との交流プログラムの予定について質問がきているとのことであった。

(10) Closing Ceremony

UST キャンパスにて、Closing Ceremony が開催された。冒頭に Prof. Chua (Dean) からメッセージをいただき、お礼の言葉を述べた (猪俣)。その後、UST 学生によるダンスのパフォーマンスが披露され、最後に、Program Certificate をいただき閉式後に皆で記念撮影を行った。



写真 16. Closing Ceremony